



21日から子どもたちが楽しみにしている夏休みになります。
毎日時間割が決まっている学校と違い、夏休みは「自分でどう時間を使うか」を考え、実行することが必要です。
夏休み期間中に経験することは「生きる力」につながります。自分でできたという成功体験だけでなく、悔しかったことも大切な学びです。
一番よくないのは、「何もしない」ことです。何もしなければ失敗はしませんが、得るものもありません。

コロナ禍は続くようなので、感染には気を付けながらも、子どもたちにとって貴重な経験ができる夏休みになるよう願っています。

夏休みもコツコツと！

ところで、この夏休みに何をするか、子どもたちは決めているのでしょうか？ 子どもの中には、「自由研究で〇〇をする」と張り切って話す子どももいて大変嬉しく思っています。ぜひ、どの子どももコツコツと学んでほしいと思います。

例えば、算数の問題を1日3問解くと、40日間で120問も解けます。ちょっとした積み重ねで、しっかりと復習ができます。

また、夏休み前には1人5冊の本の貸出をします。9月には読書感想文・感想画コンクールがあり、その課題図書も備えていますので、ぜひ読んでほしいです。借りた本は、早めに読んでしまう子どももいると思うので、たらみ図書館も利用させてみてください。土日も開館し、冷房完備の施設で調べものや読書をする、時間が有効に使えるのではないかと思います。



そのほかにかんばってほしいこと

①十分な睡眠時間をとりましょう。

脳を活性化し成長を支えるためにも、睡眠はかなり重要です。しっかりとって、決まった時刻に起きましょう。ダラダラとした生活をする、夜眠れないということがあります。夜更かしをして、睡眠時間がずれ込む（昼近くまで寝ている）というのは、生活習慣の乱れた証拠（赤信号）です。



②あいさつは必ずしよう

学校では、子ども一人一人に「あいさつをしましょう」と呼びかけています。夏休み、その役割を担うのは周りの大人です。家庭での「おはよう」「おやすみ」などは当たり前として、**自分の子どもだけではなく地域の子どものにも気持ちの良いあいさつ**を呼びかけてください。



③交通事故に気を付けよう

幸い、本校の校区では子どもの交通事故は発生していませんが、夏休み中は自転車を使う機会も増えると思います。でも、使い方を間違えると、命を危険にさらす道具にもなります。特に、次のことには十分注意させてください。

- ・狭い路地から車道への飛び出し
- ・ジグザク運転や道路の横断
- ・ノーヘル運転
- ・スピードの出し過ぎ など



夏休みの生活のきまりなどを参考に、「自分の命は自分で守る」意識を育てていきたいものです。

地域の方々や警察官も、子どもたちの健全育成には高い関心をもっておられ、いつも温かく見守っていただいています。これからも、協力し合って可愛い子どもたちを導いていきましょう。